

## 入学式挨拶（要点）

校長 山本 健敬

- 私が本来話したかった式辞の内容は、この後担任の先生から教室で配られる。持ち帰って保護者の方とともによく読んで欲しい。
- 今日の入学式、祝っていただく、また、皆さんが立派な姿を見せて感謝をすべき保護者もいない特別な式になった。
- 実は実施についても大いに迷ったが、人生の節目であること、今後の高校生活を送るうえで教材の配布や担任の先生とのコミュニケーションを図る必要性があることから、感染防止対策を十分行った上で実施することにした。
- 皆さんも入試を戦い抜き、栄冠を得たのに、なかなか新しい高校生活をスタートできない閉塞感があつただろう
- この感情を受け止めた上で、いかに前向きに進むかが極めて重要である。
- 心にとめて欲しいのは、自分たちは部外者ではないということ。この難局を乗り切る当事者であるということ。
- この状況だからこそ自分ができることに取り組んでくれることに期待する。
  
- 不要不急の外出が制限され、明日からはまた臨時休業になる。
- 課題が出て自習することになると思うが、この期間の過ごし方が再開後の大きな差になる。
- 学校に強制されるのではなく、主体的な行動ができるかどうかを試されている。
- 今は有事である。こうした有事にはその人の本来持っている人間性が試される時。
- 自制心のない人は、どうしても学習に集中できず、ゲームやスマホに興じる時間が増えてしまうだろう。
- そんな家庭内における学習習慣の有無によって、学力格差はどんどん広がってしまう。
- どうか自覚を持って過ごして欲しい。
- また、今まで当たり前にあったもの、学校に来て授業を受ける、友達とともにいる、思い切り部活動をするなど。当たり前が当たり前でなくなった時にこそ、その大切さに気付くことができると思う。
- この国難ともいえるピンチを、自分の成長というチャンスに変えて、軽率な行動を控え、自らが出来る対策を講じて欲しい。皆さんの社会力・人間力に期待する。
- 本日は入学おめでとうございます。